

## 【様式4】

平成23年度

小松市立安宅中学校 学校評価計画

		自 己 評 価			
		評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	備考
①	組織的な学校運営	〈組織的な学校運営〉 主任等を中心にして各分掌の機能化を図り、組織体として絶えずPDCAを意識した学校運営を心がける。	【成果指標】 主任等のリーダーシップの下で、各分掌の提案・実施が適切で学校が組織的・機能的に運営されている。	学校が組織的・機能的に運営されたと感じている教職員の割合が A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満	主担当：教頭 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月
		〈学校安全〉 非常時に安全かつ速やかに避難できるように、定期的な防災訓練を実施し、対処の仕方を身につける。	【努力指標】 定期的かつ計画的に防災訓練を実施し、適切な対処・連絡体制がとれるようにする。	計画的に防災訓練が実施され、適切な対処・連絡体制がとれたと感じている教職員が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：生徒指導部安全指導 評価方法：教職員アンケート 保護者アンケート 実施時期：防災訓練事後 7月、12月
②	確かな学力の育成	〈小中連携学力向上プロジェクト〉 校区の特性や教育環境を生かし、小中が連携して学びを支える基盤づくりと、学力向上に向けての研究構想を推進する。	【努力指標】 推進のためのプロジェクトチームが有効に動くことで、安宅地区の子どもたちの意識や学力向上への足がかりを作る。	小中連携推進会議が設置され、9か年の義務教育の中で、子どもたちに身につけさせたい力の共通認識と実践が進んでいると感じている教職員の割合が A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満	主担当：推進チームリーダー 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月と12月
		〈家庭学習の習慣化と内容の充実〉 学年に応じた家庭学習の習慣化と内容の充実が図られるための方策が取られている。	【成果指標】 学年目標とされている時間の家庭学習に取り組むことができ、課題提出や自主学習の成果を自覚できる。	家庭学習の習慣化と内容の充実を自覚できている生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	主担当：教務主任 評価方法：生徒アンケート 教職員アンケート 保護者アンケート 実施時期：7月と12月
		〈学習意欲を高める授業づくり〉 生徒が「わかった、できた」ことを実感できる授業づくりを心がけ、学習意欲を喚起する課題設定や学習展開を工夫する。	【満足度指標】 学習のねらいやゴールが明確で、よくわかり、できるようになったことを実感できる授業になっている。	学習のねらいが明確で、授業内容もよくわかり、できるようになったことが実感できる授業が多くなったと感じている生徒の割合が A：75%以上 B：65%以上 C：55%以上 D：55%未満	主担当：研究主任 評価方法：生徒アンケート 教職員アンケート 実施時期：7月と12月
		〈言語活動の育成〉 各教科やその他の教育活動で言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。	【成果指標】 生徒が、必要な場面で自分の思いや考えたことの結果をきちんと表現できる力が付いてきたことを実感できる。	必要な場面で、自分の思いや考えたことの結果がきちんと表現できる力が付いてきたことを実感できる生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	主担当：研究主任 評価方法：生徒アンケート 教職員アンケート 時期：7月、12月
		〈校内研修〉 積極的な授業研究や公開授業を通して指導技術を磨き、教師自身が学び合い学習や活用力を発揮できる校内研修会を実践する。	【満足度指標】 ひとり2回以上の研究授業（公開授業）を設定し、校内研修会の活性化を図り、教職員の参画意識と指導技術の向上を図る。	校内研修会で、授業づくりの研究や指導案検討、学習会等を実践したことが、授業改善・指導力の向上を図るために有効であったと感じている教職員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：研究主任 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月と12月
③	豊かな心の育成	〈集団づくり〉 学級・学年を基盤に、それぞれが自己の役割や責任を果たし、互いに認め合い高め合える集団づくりに取り組む。	【成果指標】 学年に応じた自己の役割や責任を果たし、互いに認め合い、高め合える集団の一員としての行動ができています。	学年に応じた自覚を持ち、自分の役割や責任を果たし、集団の一員としての行動ができていますと感じている生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：学年部会代表 評価方法：生徒アンケート 教職員アンケート 保護者アンケート 時期：7月と12月
		〈道徳教育〉 道徳の時間の内容を工夫・充実し、学校の教育活動全体を通して道徳的価値観・自己の生き方について自覚を深め、道徳的実践力を育成する。	【成果指標】 計画的に実践を重ね、積極的な授業研究に努めることで、生徒の道徳的気持ちの高まりを促す。	道徳の時間やその他の場面で、人間関係作りや自己の生き方などについて深く考えるようになった生徒の割合が A：75%以上 B：70%以上 C：65%以上 D：65%未満	主担当：道徳教育推進教師 評価方法：生徒アンケート 教職員アンケート 実施時期：7月と12月
		〈主体性を育む生徒会活動〉 生徒の主体性を育む学校行事や生徒会活動を企画し、参加への意欲向上や役割・責任を果たすこと、協力し合い高め合うことができる運営を目指す。	【満足度指標】 学校行事や生徒会活動に関心を持ち、積極的に参加・協力することで達成感や充実感が得られる。	学校行事や生徒会活動に関心を持ち、積極的に参加・協力することで達成感や充実感が得られたと感じている生徒の割合が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：生徒会担当 評価方法：生徒アンケート 実施時期：7月と12月

④	〈健康教育〉 教育の全分野で生徒の健康管理と指導にあたり、生徒自らが健康問題に気づき心身の健康に対する自己管理能力の向上に努める。	【成果指標】 生徒が自分の健康に関心を持ち、家庭生活においてテレビやゲーム等で使用する時間を決め規則正しい生活を送ることができる。	普段（月～金曜日）、1日あたりテレビやビデオ、テレビゲーム、漫画などに費やす時間が2時間未満の生徒の割合が A：60%以上 B：50%以上 C：40%以上 D：40%未満	主担当：保健体育部 評価方法：生徒アンケート 実施時期：7月と12月
	〈部活動の活性化〉 集団活動を通して、心身の発達を促進し、個性の伸長や社会性を高めるなどの人間育成をめざす。	【満足度指標】 所属する部活動での活動を通して、規律や礼儀などを含めた自己の心身の成長を自覚することができる。	部活動での活動を通して、規律や礼儀などを含めた心身の成長を感じている生徒の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：部活動担当 評価方法：生徒アンケート 保護者アンケート 実施時期：7月と12月
⑤	〈家庭・地域からの学びの支援〉 学校と家庭・地域が連携して、子どもの学びを支援する取り組みを積極的に推進する。	【成果指標】 子どもの生活・学習状況を理解し、家庭や地域でできる学びの支援活動が活性化している。	家庭や地域でできる子どもへの学びの支援活動が活性化していると感じている保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：教頭 評価方法：保護者アンケート 教職員アンケート 実施時期：7月と12月
	〈人間形成の基盤としての家庭教育〉 家庭教育を人間形成の基盤と捉え、連携を図りながら規範意識の向上・基本的生活習慣の確立を共に目指す。	【満足度指標】 家庭内でのコミュニケーションを促進することで、子どもの規範意識や生活習慣の改善・向上を図ることができる。	子どもの規範意識や基本的生活習慣の改善や向上を図ることができたと感じている保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：教頭 評価方法：保護者アンケート 教職員アンケート 生徒アンケート 実施時期：7月と12月
	〈信頼される学校づくり〉 積極的かつ有効な情報公開に努め、信頼される学校づくりを目指す。	【努力指標】 学校の様々な活動を広く公開するために、ホームページの更新を積極的に行う。	ホームページの更新頻度が A：週に1回以上 B：月に2回以上 C：月に1回以上 D：学期に1回程度	主担当：情報教育担当者 評価方法：更新頻度 実施時期：7月と12月